



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205810010D8	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	角田 享介		
授業担当教員名(科目責任者)	角田 享介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	角田 享介		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館33演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205810010D9	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	鈴木 斉		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館46演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205810010E0	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	薛 軍		
授業担当教員名(科目責任者)	薛 軍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	薛 軍		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館44演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育):夜間主」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205810010E1	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	松本 陸樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松本 陸樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松本 陸樹		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館34演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育):夜間主」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010E2	科目番号	05600010
授業科目名	■教養セミナー(経済)		
編集担当教員	矢島 邦昭		
授業担当教員名(科目責任者)	矢島 邦昭		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	矢島 邦昭		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館32演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120562020050	科目番号	05620200
授業科目名	●健康・スポーツ科学		
編集担当教員	中垣内 真樹		
授業担当教員名(科目責任者)	中垣内 真樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中垣内 真樹, 菅原 正志, 西澤 昭, 山内 正毅, 畑 孝幸, 日高 正博, 大石 和代, 尾崎 幸生, 田井村 明博, 林田 雅希, 山崎 浩則, 田山 淳, 玉井 慎美		
科目分類	A健康コンディショニング、自由選択科目、健・スポ科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	gaichi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部保健学科体育館2F中垣内研究室		
担当教員TEL	095-819-7966		
担当教員オフィスアワー	月曜日 10:30~12:30、16:00~17:00		
授業のねらい	健康や身体運動に関する身体的、生理的特性、またはその社会的側面などについて理解を深め、実生活で役立つ知識の獲得をねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	授業で配布する資料を用いて健康や身体運動に関する基礎知識を講義形式で説明する。適時、身近なデータを用いた計算、分析、各自のライフスタイルなどの振り返りなどの演習もおこない実生活に役立つ知識も提供する。		
授業到達目標	生活習慣に関連する身体的・精神的疾病の基礎を説明できるようにする。生活習慣と健康、身体運動と健康の関連性を説明できるようにする。個々の生活習慣を振り返り、生活習慣を少しでも改善できるようにする。		
授業内容	以下のテーマに従って健康や身体運動に関する身体的、生理的徳用またはその社会的側面などについて理解を深める。		
	回	内容	
	1	10月4日: 中垣内真樹; 運動と健康	
	2	10月11日: 菅原正志; スポーツ活動と熱障害	
	3	10月18日: 田井村明博; 運動とエネルギー、運動と筋肉	
	4	10月25日: 山内正毅; 運動学習の心理学	
	5	11月1日: 畑孝幸; スポーツと健康の関係の考察	
	6	11月8日: 日高正博; スポーツの楽しみ方の工夫	
	7	11月15日: 西澤 昭; リラクゼーションの方法	
	8	11月22日: 山崎浩則; 青年期に健康を考える	
	9	11月29日: 山崎浩則; 生活習慣病(1)	
	10	12月6日: 玉井慎美; 生活習慣病(2)	
	11	12月13日: 林田雅希; 心の健康(1)	
	12	12月20日: 田山淳; 心の健康(2)	
	13	1月10日: 尾崎幸生; 歯と歯ぐきの健康	
	14	1月17日: 大石和代; 青年期の性	
15	1月24日: 中垣内真樹; 総括		

	16
キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。 参考書: 学生と健康 (編) 国立大学等保健管理施設協議会 南江堂
成績評価の方法・基準等	レポートまたは小テストの合計100%。毎回のテーマに関するレポートを総合して評価する。各週のレポートあるいは小テストは、10点満点で評価し、15回の平均で評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

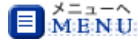


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」

シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金6																								
開講期間																											
必修選択	選択	単位数	2.0																								
時間割コード	20120566011050	科目番号	05660110																								
授業科目名	●日本国憲法(個人と国家)																										
編集担当教員	井田 洋子																										
授業担当教員名(科目責任者)	井田 洋子																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井田 洋子																										
科目分類	人文・社会科学科目、自由選択科目																										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																								
教室	[経]本館22講義室																										
対象学生(クラス等)																											
担当教員Eメールアドレス	smile@nagasaki-u.ac.jp																										
担当教員研究室	[経]本館506																										
担当教員TEL	095-820-6401																										
担当教員オフィスアワー	金曜日17:00~17:30, 19:30~20:00																										
授業のねらい	現日本国憲法が掲げる普遍的原理としての基本的人権の尊重・国民主権・権力分立と、独自の価値としての戦争放棄及び象徴天皇制について、それぞれ、具体的事例の検証や他国の憲法状況との比較を交えながら考察する。そうした作業を通して、現日本国憲法の存在意義のみならず、「憲法」という法規範そのものの存在意義を探究することを目指す。																										
授業方法(学習指導法)	講義形式にて行う。なお、教科書を使用するほか、授業内容に関するレジュメ(毎回)及び関連する判例(適宜)を配布する。また、教員側による一方的な講義にならないよう、定期的なレポート提出によって、受講生に意見を述べる機会を保障する。																										
授業到達目標	受講生が、①「憲法」の存在を身近なものとして捉えること、②様々な憲法問題を自らの生活に深く関わる問題として受け止めかつ考えること、なかでも、③遠くない将来、政治的課題として浮かび上がってくるであろう憲法改正を巡る問題に対して、それが国の根本的なかたちを変えることに繋がっているという認識をもったうえで、主権者として主体的に関わろうとする姿勢を涵養すること、の3点を目指す。																										
授業内容	<p>最初に、憲法を学ぶ上で欠かせないいくつかの基本概念について、一通り説明する。その後、人権問題、国家権力や戦争放棄を巡る問題等、多岐に亘る憲法問題の中から、毎回ひとつずつテーマを取り上げ、それについて国内外の具体的事例を引きながら考察を深めていく。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回 4月6日 憲法とはなにか 基本概念の説明—法治国家、基本的人権、国民主権、民主主義、立憲主義等。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第2回 4月13日 象徴天皇制—大日本帝国憲法下での天皇制との比較、国民主権原理とのかかわり</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第3回 4月20日 国民主権と選挙制度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第4回 4月27日 男女平等を巡る問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第5回 5月11日 政教分離問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第6回 5月18日 表現の自由1—表現の自由の意義と限界</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第7回 5月25日 表現の自由2—マス・メディアの表現の自由</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第8回 6月1日 表現の自由3—プライバシーの権利とのかかわり</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第9回 6月8日 刑事手続・裁判員制度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第10回 6月15日 生存権・環境権</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第11回 6月22日 外国人の人権</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	第1回 4月6日 憲法とはなにか 基本概念の説明—法治国家、基本的人権、国民主権、民主主義、立憲主義等。	2	第2回 4月13日 象徴天皇制—大日本帝国憲法下での天皇制との比較、国民主権原理とのかかわり	3	第3回 4月20日 国民主権と選挙制度	4	第4回 4月27日 男女平等を巡る問題	5	第5回 5月11日 政教分離問題	6	第6回 5月18日 表現の自由1—表現の自由の意義と限界	7	第7回 5月25日 表現の自由2—マス・メディアの表現の自由	8	第8回 6月1日 表現の自由3—プライバシーの権利とのかかわり	9	第9回 6月8日 刑事手続・裁判員制度	10	第10回 6月15日 生存権・環境権	11	第11回 6月22日 外国人の人権
回	内容																										
1	第1回 4月6日 憲法とはなにか 基本概念の説明—法治国家、基本的人権、国民主権、民主主義、立憲主義等。																										
2	第2回 4月13日 象徴天皇制—大日本帝国憲法下での天皇制との比較、国民主権原理とのかかわり																										
3	第3回 4月20日 国民主権と選挙制度																										
4	第4回 4月27日 男女平等を巡る問題																										
5	第5回 5月11日 政教分離問題																										
6	第6回 5月18日 表現の自由1—表現の自由の意義と限界																										
7	第7回 5月25日 表現の自由2—マス・メディアの表現の自由																										
8	第8回 6月1日 表現の自由3—プライバシーの権利とのかかわり																										
9	第9回 6月8日 刑事手続・裁判員制度																										
10	第10回 6月15日 生存権・環境権																										
11	第11回 6月22日 外国人の人権																										

	12	第12回 6月29日 国家権力の構造—立法権と行政権との関係
	13	第13回 7月6日 司法—違憲立法審査権
	14	第14回 7月13日 戦争放棄1
	15	第15回 7月20日 戦争放棄2—憲法改正問題とのかかわり
	16	第16回 8月3日 定期試験
キーワード	個人・国家・基本的人権・民主主義・立憲主義	
教科書・教材・参考書	教科書:大隈義和・大江正昭編『憲法学へのいざない』青林書院。 参考書:『セレクト六法』岩波書店、『コンパクト六法』有斐閣等、いずれかの六法書。	
成績評価の方法・基準等	レポート50%、定期試験50%の総合評価とする。なお、出席率が低い場合には、定期試験の受験資格を失うものとする。	
受講要件(履修条件)	特になし。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	新聞やテレビ等で定期的にニュースをチェックすることが、この授業の内容の理解を深めるために有用である。	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

『 全学教育(夜間主) 』

タイムアウトまでおよそ1798秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120569061450	科目番号	05690614
授業科目名	●オランダの文化		
編集担当教員	山下 龍		
授業担当教員名(科目責任者)	山下 龍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 龍		
科目分類	自由選択科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館12講義室		
対象学生(クラス等)	全学生		
担当教員Eメールアドレス	info@ryuumon.com		
担当教員研究室	無し		
担当教員TEL	無し		
担当教員オフィスマワー	無し		
授業のねらい	日本と北ヨーロッパの中心国の一つとして発展してきたオランダとの交流が江戸初期に長崎から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、北ヨーロッパの歴史的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の修得と文化理解を目的とします。		
授業方法(学習指導法)	講義形式 この講義の為に作成した資料や視聴覚教材(powerpoint)を利用して、世界史が得意ではない学生にも、より分かりやすく、オランダの文化と歴史を紹介します。		
授業到達目標	オランダ・北ヨーロッパの文化と歴史、または、日蘭交流についての基本的な知識を修得します。		
授業内容	ローマ時代前から現在までの歴史上の出来事を説明しながら、オランダの国とその発展を理解させます。オランダを知ることで北ヨーロッパの文化の発展も理解することができます。		
	回	内容	
	1	第1課 オランダの紹介	
	2	第2課 9世紀までのオランダ ローマ帝国時代・キリスト教の流布・カール大帝の文化ルネッサンス	
	3	第3課 15世紀までのオランダ オランダ語文学の誕生・貿易国としての発展	
	4	第4課 16世紀までのオランダ エラスムスとヒューマニズム・ルターとプロテスタント教	
	5	第5課 16世紀までのオランダ オランダの独立戦争・ネーデルランデン7州連邦共和国の誕生	
	6	第6課 16世紀までのオランダ 15・16世紀の芸術家たち(ファン・エイク、ブリュッゲルなど)	
	7	第7課 17世紀のオランダ オランダ東インド会社の創立・日蘭交流	
	8	第8課 17世紀のオランダ 黄金時代の芸術(レンブラント・フェルメールなど)・世界貿易中心のオランダ	
	9	第9課 17世紀のオランダ 黄金時代の学者たち・黄金時代の英雄たち・奴隷制	
	10	第10課 18・19世紀のオランダ ナポレオンの時代・ネーデルラント王国の誕生	
	11	第11課 19・20世紀のオランダ ゴッホの芸術・女性権利運動・第1次世界大戦・20世紀の芸術(モンドリアンなど)	
	12	第12課 20世紀のオランダ 第2次世界大戦・インドネシアの独立	
13	第13課 オランダの宗教・祭り・伝統		

	14	第14課 オランダの教育・政治・世界の中のオランダ
	15	講義の総括
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教材 : プリント教材 毎回配布します。	
成績評価の方法・基準等	成績評価の方法・基準等 成績評価は、○定期試験70%、授業中の提出物30%で行います。	
受講要件(履修条件)	全回出席が原則。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6																								
開講期間																											
必修選択	必	単位数	2.0																								
時間割コード	20120582001050	科目番号	05820010																								
授業科目名	●情報基礎																										
編集担当教員	鈴木 斉																										
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉																										
科目分類	情報科学科目																										
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																								
教室																											
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース																										
担当教員Eメールアドレス	sigh@nagasaki-u.ac.jp																										
担当教員研究室	経済学部本館 631																										
担当教員TEL	095-820-6372																										
担当教員オフィスアワー	講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jpにて受け付けています。																										
授業のねらい	情報およびコンピュータに関する基礎理論や概念を理解した上で応用知識を備えさせるとともに、それらを自在に活用できる能力を身につけさせる。また、ネットワークを利用する際に考慮すべきセキュリティや情報倫理についても理解する。																										
授業方法(学習指導法)	授業は、講義と演習を組み合わせる。授業時間内の操作演習や授業時間外の課題を通し講義内容の理解を深める。 eラーニングシステムWebClassを、授業資料や演習課題の提示、課題回収や返却、各種連絡等に活用する。																										
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器やネットワークの機能に関わる基本的事項を説明できる。 ・情報機器やネットワークを利用する際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる。 ・パソコンで情報を扱うための情報リテラシーが身につく。 ・インターネット(Web)、電子メール、プレゼンテーション、文書作成、表計算を基本的に理解し、操作方法や活用方法を説明できる。 ・情報資源・ネットワーク環境を利用して、情報を収集、分析、活用できる。 																										
授業内容	<p>原則として以下の内容に沿って授業を進めるが、進捗や理解度の状況に応じて若干の変更を行うことがあります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス(授業方法の説明)、学習概要、授業で使用するコンピュータ環境、メール</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情報の検索・活用と情報倫理 情報検索の仕組みと手法、情報の信頼性と信ぴょう性、情報倫理</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文書作成(1) Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式(1)、ページの設定</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文書作成(2) 段落の書式(2)、オブジェクトの操作、表の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文書作成(3) ワードプロを用いる利点、作業環境の設定、スタイル</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>表計算(1) Microsoft Excelの機能、基本操作、数式、表の書式設定</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>表計算(2) セルの参照、関数、書式の設定</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>表計算(3) データの検索・並び替え・抽出・集計、複数シートを使ったデータ処理</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>表計算(4) グラフ、表・グラフの印刷、アプリケーションの連携</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	ガイダンス(授業方法の説明)、学習概要、授業で使用するコンピュータ環境、メール	2	情報の検索・活用と情報倫理 情報検索の仕組みと手法、情報の信頼性と信ぴょう性、情報倫理	3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策	4	文書作成(1) Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式(1)、ページの設定	5	文書作成(2) 段落の書式(2)、オブジェクトの操作、表の作成	6	文書作成(3) ワードプロを用いる利点、作業環境の設定、スタイル	7	表計算(1) Microsoft Excelの機能、基本操作、数式、表の書式設定	8	表計算(2) セルの参照、関数、書式の設定	9	表計算(3) データの検索・並び替え・抽出・集計、複数シートを使ったデータ処理	10	表計算(4) グラフ、表・グラフの印刷、アプリケーションの連携	11	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化
回	内容																										
1	ガイダンス(授業方法の説明)、学習概要、授業で使用するコンピュータ環境、メール																										
2	情報の検索・活用と情報倫理 情報検索の仕組みと手法、情報の信頼性と信ぴょう性、情報倫理																										
3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策																										
4	文書作成(1) Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式(1)、ページの設定																										
5	文書作成(2) 段落の書式(2)、オブジェクトの操作、表の作成																										
6	文書作成(3) ワードプロを用いる利点、作業環境の設定、スタイル																										
7	表計算(1) Microsoft Excelの機能、基本操作、数式、表の書式設定																										
8	表計算(2) セルの参照、関数、書式の設定																										
9	表計算(3) データの検索・並び替え・抽出・集計、複数シートを使ったデータ処理																										
10	表計算(4) グラフ、表・グラフの印刷、アプリケーションの連携																										
11	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化																										

	12	プレゼンテーション プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて
	13	ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成
	14	Webページ作成 HTML、Webページの作成
	15	総合演習
	16	まとめ、試験
キーワード	情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、ネットワーク社会	
教科書・教材・参考書	講義資料を配布します。必要に応じて適宜追加資料や課題などをWebClassにて提示します。	
成績評価の方法・基準等	定期試験 30% コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します。 演習課題 60% 機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します。 授業への参加状況 10% 作業指示に従わない場合や演習妨害等の行為を減点とします。	
受講要件(履修条件)	特にありません。	
本科目の位置づけ	情報メディア基盤センターの端末を活用出来るようになる。また、専門課程での学習に役立てられるようコンピュータ関連の技術的な基礎、および、原理の概要を習得する。	
学習・教育目標	特にありませんが、コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120588005350	科目番号	05880053
授業科目名	●芸術と文化		
編集担当教員	井川 惺亮		
授業担当教員名(科目責任者)	井川 惺亮		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井川 惺亮		
科目分類	自由選択科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館12講義室		
対象学生(クラス等)	全学生		
担当教員Eメールアドレス	seiryokawa@ybb.ne.jp		
担当教員研究室	0.0		
担当教員TEL	携帯:09031919363		
担当教員オフィスアワー	0.0		
授業のねらい	芸術と文化についての理解力は、自身(私)と外界(世界)との関係性を知るところから始めていきます。そうすると自身の持つ感受性を養うことに気がきます。それを養えば自身にとっての芸術と文化との関わりが見えてきます。ヨーロッパに行きますと殆どの観光客は美術館に足を運びます。美術館では殊の外「絵画」作品を見る旅人が圧倒的に多い現象となっています。これは芸術や文化の根底に「絵画」というものが大きく関わっているからだと思います。こうしてみると何故絵画が万人を引き付け魅力のあるものとなっているのでしょうか。私は絵画を専門にした現代美術の活動をしていますので、アートが文化を動かすことなど、絵画の立場から芸術と文化を述べていきます。繰り返しますが、芸術と文化の根底には絵画が潜んでいます。そこで因みに絵画とは基本的に「色」と「形」で、また「点・線・面」と空間で成立っています。更に絵画の表現として平面があり、立体もあります。また日常でもあります。もっと詳しく聞きたい人は受講してくださいね。		
授業方法(学習指導法)	芸術とは、文化とは何かを直接的に聞くのではなく、私にとっての芸術や文化はどんなものであるのかを理解するところからスタートさせます。そのためには具体的な手立てとして自身の感性を磨くことから始めますが、今回は「色日記」というものを作成してもらい、そこから派生してくるものをデザインしてみたりして新たな感性(美的センス)を養っていきます。出来上がったものを皆で鑑賞して行きます。これらのプロセスを通して私にとっての芸術のありようや文化のありようが理解できるようになっていきます。		
授業到達目標	日常的な生活観の中で、芸術と文化が自身(私)に関わっていることを認識していきます。そのことによって日常の視野が広がっていきます。不思議なことに「芸術と文化」を無理なく理解している自身(私)に気付いています。		
	テキストは下記に参考書で挙げた「地域に根をはった美術」を時折使用しますが、上記授業方法でも述べていますように、芸術と文化のありようを探りながら、同時に自己の感性(美的センス)を身につける上で、誰でもが気楽できる作品制作を具体的にさせていただきます。授業内容は具体的に「絵画」の基となる「色」と「形」についてみていきます。まず私たちの日常の色の世界から見ていきますが、例えば色数はパレットに通常12色ですが、一体どのくらいの色数があるのでしょうか。そして「色日記」を作成しますと、その時点から色彩の世界が一気に広がっていきます。この「色日記」から「形」に注目し、極めて簡単なシステムでデザインが制作できます。それらが仕上がりますと、あなたたちが既にアーティストとなっております。同時にテキストについても紹介します。長崎地方の国の端っこにありながらも、地域おこしにアートの力によって地域活性化を促進させた事例が多く記載されており、「芸術と文化」の創造につながっていて、それらも解説していきます。		
	回	内容	
	1	2012-4-6 1回 オリエンテーションとして授業全体のコンセプトやスケジュールなど、また制作するにあたり準備するものなども説明する。	
	2	2012-4-13 2回 私にとっての芸術と文化のありようを考える。その根底にあるものは「絵画」作品であり、そこには「色」と「形」がある。その「色」について学ぼう。	
		2012-4-20 3回 授業開始時に制作のための材料を購入(1,000円程度)してもらい、「色日記」の作成へ。続いて	

授業内容	3	色の三原色について	
	4	2012-4-27 4回 前回の継続。テキスト(参考書)の紹介	
	5	2012-5-11 5回 井川は福岡新天町にある「ギャラリー風」にて絵画展を開催中(5月8日～13日)です。そのため休講とする。なお時間のある方は当ギャラリーへ鑑賞しに来てください。	
	6	2012-5-18 6回 「色日記」の発表会。続いて「色日記」より「色」から「形」へ、そしてその「形」のデザインへと進む。	
	7	2012-5-25 7回 改めてデザイン制作の方法として、フリーハンド描けるシンプルな「形」で、しかも簡単なシステムでデザインする方法を説明をする。	
	8	2012-6-1 8回 前回の継続。テキスト(参考書)の解説をする。	
	9	2012-6-8 9回 前回の継続。テキスト(参考書)の解説をする。また家でも本課題をしておくこと。	
	10	2012-6-15 10回 井川の活動の紹介としてDVDにて映像に当てる。地域文化の活性化と同時に国際な場でのアートシーンの展開を解説する。	
	11	2012-6-22 11回 「形」のデザインの間発表会	
	12	2012-6-29 12回 「形」のデザインの継続。テキスト(参考書)の解説をする。また家でも本課題をしておくこと。	
	13	2012-7-6 13回 前回の継続。テキスト(参考書)の解説をする。また家でも本課題をしておくこと。	
	14	2012-7-13 14回 前回の継続。後半からデザインの批評会として、受講生全員のデザイン作品を一堂に並べ鑑賞会とする。	
	15	2012-7-2 15回 「形」のデザインの批評会(継続)	
	16	2012-7-27 16回 5回の補講	
	キーワード	インスタレーション	
	教科書・教材・参考書	参考書: 著書名『地に根をはった美術』、著者「RING ART実行委員会」1,984円	
成績評価の方法・基準等	試験50% 提出作品40% 感想文10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火7																				
開講期間																							
必修選択	必	単位数	1.0																				
時間割コード	20120590001050	科目番号	05900010																				
授業科目名	●英語コミュニケーションI																						
編集担当教員	吉村 宗司																						
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司																						
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司																						
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目																						
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目																				
教室	[経]CALL教室																						
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース																						
担当教員Eメールアドレス	yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp																						
担当教員研究室	非常勤講師控室																						
担当教員TEL																							
担当教員オフィスアワー	授業終了後(21:10~21:20/MS教室)																						
授業のねらい	授業のねらい:対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語)-必要最低限の英語(米語)-を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に掲げるものである。																						
授業方法(学習指導法)	まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声の特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常生活表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。																						
授業到達目標	本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。																						
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声の特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音 /j/, /w/, /r/, /t/ と /l/ の発音</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/ の脱落、/t/, /d/ のラ音化</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連結しない場合の /l/, /h/ の脱落、半母音 /j/, /w/ と /n/+/d/ による音変化</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>『閉鎖音の連結による脱落』、『同じ子音の連結による脱落』を聞き取るパターン</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音 /j/ に絡む音変化①)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)	2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について	3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音 /j/, /w/, /r/, /t/ と /l/ の発音	4	子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説	5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック	6	『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/ の脱落、/t/, /d/ のラ音化	7	連結しない場合の /l/, /h/ の脱落、半母音 /j/, /w/ と /n/+/d/ による音変化	8	『閉鎖音の連結による脱落』、『同じ子音の連結による脱落』を聞き取るパターン	9	『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音 /j/ に絡む音変化①)
回	内容																						
1	オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)																						
2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について																						
3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音 /j/, /w/, /r/, /t/ と /l/ の発音																						
4	子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説																						
5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック																						
6	『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/ の脱落、/t/, /d/ のラ音化																						
7	連結しない場合の /l/, /h/ の脱落、半母音 /j/, /w/ と /n/+/d/ による音変化																						
8	『閉鎖音の連結による脱落』、『同じ子音の連結による脱落』を聞き取るパターン																						
9	『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音 /j/ に絡む音変化①)																						

	10 『同化』を聞き取るパターン(2)(半母音/j/に絡む音変化②)、『調音点が近い子音の連続』
	11 『同化』を聞き取るパターン(3)(/h/の後続音への影響)、On an Airplane(1)
	12 On an Airplane(2)／VTR視聴／ニュースを聞き取る
	13 At an Airport(1)／洋楽を聞き取る
	14 At an Airport(2)／Taking a Taxi(1)／洋楽を聞き取る
	15 Taking a Taxi(2)／洋楽を聞き取る／まとめ
	16 定期試験 ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。
キーワード	音法
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング-聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR教材)
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況20%)等の総合判定によって評価を行なう。
受講要件(履修条件)	配布された教材に対する予習復習は必須である。特に、毎時学んだ内容に関し、毎日のトレーニングを継続させることによって、実用英米語運用能力の促進が可能となる。したがって、復習に力点を置いた学習姿勢が望まれる。
本科目の位置づけ	本科目は、英語の四技能習得のうち、実用英語運用能力、即ちリスニングとスピーキングの能力を促進させることに力点を置いた位置づけである。
学習・教育目標	英語国民と円滑なコミュニケーションを図ることができるレベルのリスニング力とスピーキング力を習得することが目標である。また、並行してTOEICテストや各種英語検定試験などのリスニング部門で高得点をあげることも目標に掲げたい。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	辞書、あるいは電子辞書を準備する。授業時間内での学習のみで能力を促進させるには限界があるため、例えばNHK教育テレビやラジオの語学番組等を視聴、聴取するなど、とにかく毎日英語に接する時間を捻出することが望ましい。英語に親しむことを習慣にできれば上達は必ず期待できる。限られた時間ですが、一緒にがんばりましょう!!





シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	火7																				
開講期間																							
必修選択	必	単位数	1.0																				
時間割コード	20120590001051	科目番号	05900010																				
授業科目名	●英語コミュニケーションI																						
編集担当教員	吉村 宗司																						
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司																						
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司																						
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目																						
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目																				
教室	[経]本館MS1																						
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース																						
担当教員Eメールアドレス	yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp																						
担当教員研究室	非常勤講師控室																						
担当教員TEL																							
担当教員オフィスアワー	授業終了後(21:10~21:20/MS教室)																						
授業のねらい	授業のねらい:対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語)-必要最低限の英語(米語)-を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に掲げるものである。																						
授業方法(学習指導法)	まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声の特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。																						
授業到達目標	本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。																						
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声の特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音 /j/, /w/, /r/, /t/ と /l/ の発音</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/ の脱落、/t/, /d/ のラ音化</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連結しない場合の /l/, /h/ の脱落、半母音 /j/, /n+/t/ と /n+/d/ による音変化</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>『閉鎖音の連結による脱落』、『同じ子音の連結による脱落』を聞き取るパターン</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音 /j/ に絡む音変化①)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)	2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について	3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音 /j/, /w/, /r/, /t/ と /l/ の発音	4	子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説	5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック	6	『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/ の脱落、/t/, /d/ のラ音化	7	連結しない場合の /l/, /h/ の脱落、半母音 /j/, /n+/t/ と /n+/d/ による音変化	8	『閉鎖音の連結による脱落』、『同じ子音の連結による脱落』を聞き取るパターン	9	『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音 /j/ に絡む音変化①)
回	内容																						
1	オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)																						
2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について																						
3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音 /j/, /w/, /r/, /t/ と /l/ の発音																						
4	子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説																						
5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック																						
6	『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/ の脱落、/t/, /d/ のラ音化																						
7	連結しない場合の /l/, /h/ の脱落、半母音 /j/, /n+/t/ と /n+/d/ による音変化																						
8	『閉鎖音の連結による脱落』、『同じ子音の連結による脱落』を聞き取るパターン																						
9	『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音 /j/ に絡む音変化①)																						

	10 『同化』を聞き取るパターン(2)(半母音/j/に絡む音変化②)、『調音点が近い子音の連続』
	11 『同化』を聞き取るパターン(3)(/h/の後続音への影響)、On an Airplane(1)
	12 On an Airplane(2)／VTR視聴／ニュースを聞き取る
	13 At an Airport(1)／洋楽を聞き取る
	14 At an Airport(2)／Taking a Taxi(1)／洋楽を聞き取る
	15 Taking a Taxi(2)／洋楽を聞き取る／まとめ
	16 定期試験 ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。
キーワード	音法
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング-聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR教材)
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況20%)等の総合判定によって評価を行なう。
受講要件(履修条件)	配布された教材に対する予習復習は必須である。特に、毎時学んだ内容に関し、毎日のトレーニングを継続させることによって、実用英米語運用能力の促進が可能となる。したがって、復習に力点を置いた学習姿勢が望まれる。
本科目の位置づけ	本科目は、英語の四技能習得のうち、実用英語運用能力、即ちリスニングとスピーキングの能力を促進させることに力点を置いた位置づけである。
学習・教育目標	英語国民と円滑なコミュニケーションを図ることができるレベルのリスニング力とスピーキング力を習得することが目標である。また、並行してTOEICテストや各種英語検定試験などのリスニング部門で高得点をあげることも目標に掲げたい。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	辞書、あるいは電子辞書を準備する。授業時間内での学習のみで能力を促進させるには限界があるため、例えばNHK教育テレビやラジオの語学番組等を視聴、聴取するなど、とにかく毎日英語に接する時間を捻出することが望ましい。英語に親しむことを習慣にできれば上達は必ず期待できる。限られた時間ですが、一緒にがんばりましょう!!





シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

『 全学教育(夜間主) 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20120590003050	科目番号	05900030
授業科目名	●英語コミュニケーションⅡ		
編集担当教員	白水 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	白水 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	白水 桂子		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部 夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	kuwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所2階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了時、またはメールで対応します。		
授業のねらい	TOEIC形式の問題を使って表現や文法事項の復習をします。また、リスニングの練習も行い、英語の基礎力向上を目指します。		
授業方法(学習指導法)	毎回、ユニットを一つずつ進めるのでテキストの練習問題を予習して来てください。授業では、解答の確認と語彙や文法事項の復習等を行います。		
授業到達目標	基礎的な文法事項および語彙の定着を目指します。		
授業内容	予習してきた問題の解答を指名して確認し、語彙や文法事項を解説、復習します。また、期末試験以外に単語のテストや復習テストを適宜実施します。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	UNIT 1 動詞と時制(1)	
	3	UNIT 2 動詞と時制(2)	
	4	UNIT 3 動詞と時制(3)/品詞	
	5	UNIT 4 仮定法	
	6	UNIT 5 準動詞(1)	
	7	UNIT 6 準動詞(2)	
	8	復習テスト	
	9	UNIT 7 準動詞(3)	
	10	UNIT 8 準動詞(4)	
	11	UNIT 9 形容詞・副詞と比較	
	12	UNIT 10 不定代名詞	
	13	UNIT 11 関係詞(1)	
	14	UNIT 12 関係詞(2)	
	15	文法事項のまとめ	
16	授業の総括(定期試験)		

キーワード	
教科書・教材・参考書	北原良夫(著)「TOEICテストへようこそ」朝日出版社
成績評価の方法・基準等	期末試験(復習テストを含む)60% 授業への積極的な参加状況(単語のテストを含む)40% によって総合的に評価します。
受講要件(履修条件)	欠席がある一定の回数以上に達した場合、期末試験を受験する資格がなくなります。30分以上の遅刻や授業終了前の早退は欠席と見なします。(特別な事情がある場合は個別に相談してください。)
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20120590003051	科目番号	05900030
授業科目名	●英語コミュニケーションⅡ		
編集担当教員	丸山 真純		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	masazumi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所312		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木 12:00-14:30		
授業のねらい	<p>毎回1つの語について、よく用いられる使い方を学ぶ(具体的な語については以下を参照)。 コミュニケーションのクラスなので、簡単なスキットを見ながら、表現を学んでいく。また、表現力を増強するために、そうした表現を用いた別の表現なども学んでいく。 取り上げる表現は基本的な動詞であり、その他の語彙についても基本的なものが中心となる。語を単独に学ぶのではなく、コロケーション(語と語の結びつき)で学んでいきたい。例えば、comeという動詞は、多くの場合、come toの形で用いられる(come とtoが結びつきやすい)。それぞれをばらばらで学ぶのではなく、まとめ、そして、会話の文脈の中で学んでいく。</p>		
授業方法(学習指導法)	CALL教室にて、担当教員による解説のほか、Pair-Work Group-Workなど、コミュニケーション活動を重視する		
授業到達目標	基本的な動詞に関する文法とそのための語彙の理解。		
授業内容	教科書に基づき、以下の事柄を学習し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。		
	回	内容	
	1	Introduction	
	2	be(1)	
	3	have(1)	
	4	do(1)	
	5	get (1)	
	6	Quiz 1 go(1)	
	7	say(1)	
	8	know(1)	
	9	think(1)	
	10	Quiz 2 be(2)	
11	see(1)		

	12	come (1)
	13	mean (1)
	14	have(2)
	15	Catch-up & Review
	16	Quiz 3
キーワード		
教科書・教材・参考書	資料を配布する	
成績評価の方法・基準等	<p>毎回、授業の最後に、授業で学んだ表現についての簡単な確認を行う。全体で40点に相当する。これは、授業外での学習を促す目的のものである。</p> <p>また、小テストを3回行う(最後の小テストはテスト期間になる予定)。1回20点×3回=60点である。</p> <p>授業での皆さんの反応を見ながら、これ以外の課題を課す場合もある。その際は、上記の代替になるか、あるいは、ボーナス・ポイントとする。</p>	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	基本的な事柄を英語で表現できること/しよとすることを目標とする	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	<p>科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。</p> <p>辞書は必ず毎回持参すること。</p>	





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

『 全学教育(夜間主) 』

タイムアウトまでおよそ1797秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20120590005051	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ		
編集担当教員	丸山 真純		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経]CALL教室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	masazumi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所312		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木 12:00-14:30		
授業のねらい	<p>毎回1つの語について、よく用いられる使い方を学ぶ(具体的な語については以下を参照)。 コミュニケーションのクラスなので、簡単なスキットを見ながら、表現を学んでいく。また、表現力を増強するために、そうした表現を用いた別の表現なども学んでいく。 取り上げる表現は基本的な動詞であり、その他の語彙についても基本的なものが中心となる。語を単独に学ぶのではなく、コロケーション(語と語の結びつき)で学んでいきたい。例えば、comeという動詞は、多くの場合、come toの形で用いられる(come とtoが結びつきやすい)。それぞれをばらばらで学ぶのではなく、まとめ、そして、会話の文脈の中で学んでいく。</p>		
授業方法(学習指導法)	CALL教室にて、担当教員による解説のほか、Pair-Work Group-Workなど、コミュニケーション活動を重視する		
授業到達目標	基本的な動詞に関する文法とそのための語彙の理解。		
授業内容	教科書に基づき、以下の事柄を学習し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。		
	回	内容	
	1	Introduction	
	2	want(1)	
	3	take(1)	
	4	look(1)	
	5	make(1)	
	6	Quiz 1 put(1)	
	7	give(1)	
	8	tell	
	9	like(1)	
	10	Quiz 2 need	
11	work(1)		

	12	use
	13	try
	14	find
	15	Catch-up & Review
	16	Quiz 3
キーワード		
教科書・教材・参考書	資料を配布する	
成績評価の方法・基準等	<p>毎回、授業の最後に、授業で学んだ表現についての簡単な確認を行う。全体で40点に相当する。これは、授業外での学習を促す目的のものである。</p> <p>また、小テストを3回行う(最後の小テストはテスト期間になる予定)。1回20点×3回=60点である。</p> <p>授業での皆さんの反応を見ながら、これ以外の課題を課す場合もある。その際は、上記の代替になるか、あるいは、ボーナス・ポイントとする。</p>	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	基本的な事柄を英語で表現できること/しよとすることを目標とする	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	<p>科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。</p> <p>辞書は必ず毎回持参すること。</p>	





シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

『 全学教育(夜間主) 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20120590005050	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ		
編集担当教員	白水 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	白水 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	白水 桂子		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	kuwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所2階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業直後またはメールで受け付けます。		
授業のねらい	英語によるコミュニケーションのために不可欠な文法項目の確認と定着を目的とします。		
授業方法(学習指導法)	中学・高校で学習した基礎的な文法知識を易しい問題を解答することで確認します。簡単な英作文の解答練習やリスニング、復習テストも行います。		
授業到達目標	英文読解等に必要な基礎的な文法事項の定着。		
授業内容	中盤までは基本的にユニットを2つずつ進めていきます。(初回からテキストの内容に入ります。)復習テスト等で理解度を確認します。		
	回	内容	
	1	英語の基本語順 自動詞と他動詞	
	2	二重目的語 補語	
	3	疑問文 否定	
	4	現在形・現在進行形 過去形	
	5	完了形 will / be going to	
	6	助動詞 可算名詞・不可算名詞	
	7	小テスト(予定)	
	8	形容詞 / 副詞 形容詞句 / 副詞句	
	9	動名詞と不定詞 前置詞(1)場所と動き	
10	前置詞(2)時間 比較		
	受動態・能動態		

	11	接続詞
	12	関係代名詞
	13	関係副詞
	14	話法
	15	仮定法
	16	授業の総括(試験)
キーワード		
教科書・教材・参考書	Honda & Tsuchiya (2012) College Grammar Pathfinder [Kinseido]	
成績評価の方法・基準等	期末試験・小テスト 50% 授業への参加状況(復習テスト等を含む)50% 以上によって総合的に評価します。	
受講要件(履修条件)	欠席がある一定の回数以上に達した場合、期末試験を受験する資格がなくなります。30分以上の遅刻や授業終了前の早退は欠席と見なします。特別な事情がある場合は個別に相談してください。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20120590009050	科目番号	05900090
授業科目名	●総合英語 I		
編集担当教員	前川 智子		
授業担当教員名(科目責任者)	前川 智子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前川 智子		
科目分類	外国語科目、B科目群 外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	t-mae@asca-iso.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控え室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業開始前10分間		
授業のねらい	英語の構成法を学ぶこと、語彙を増やすこと、英語らしい読み方が出来ることがねらいである。この三点をマスターさせることにより、今後の英語学習につなげたい。		
授業方法(学習指導法)	教科書の、語句と英文構成に関する練習問題(特に、1と2)を中心に学習し、英語構成をマスターし、派生語を中心に語彙力を向上させる。各章の最初の段落をoverlapping, shadowingをしながら、英語らしい読み方を習得する。また、空所補充形式のリスニング問題を行い、リスニング力と共に語彙力を確認する。		
授業到達目標	英語構成を確実に身につける。派生語を理解し、語彙を増やす。 英語らしい発音・イントネーションで英文を読むことができる。		
授業内容	第1回 教科書販売 / 授業の進め方、教科書の使い方、Ch.1 September 11 (英文構成) 第2回 Ch.1: September 11 (語彙・音読・リスニング) 第3回 Ch.2: Beyond "September 11" (語彙、英文構成、音読、リスニング) 第4回 Ch.3: The Stone Walk / 第5回 Ch.4: Students' Power in the Stone Walk 第6回 Ch. 5:Japan and My Family (語彙、音読、リスニング) 第7回 Review 第8回 中間テスト(Ch.1~ 5) / Ch.6(語彙) 第9回 Ch.6: The Japan that I love (語彙、音読、リスニング) 第10回 Ch.7:Paper Sculpture (語彙、音読、リスニング) 第11回 Ch.8:The tour of the exhibition (語彙、音読、リスニング) 第12回 Ch.9:The Art of Memory (語彙、音読、リスニング) 第13回 Ch.10:Statues for Peace (語彙、音読、リスニング) 第14回 Ch.12: Japanese Young Volunteers in America (語彙、音読、リスニング) 第15回 Review 第16回 期末テスト(中間テスト以降の範囲)		
キーワード	語彙力、英文構成法、音読		
教科書・教材・参考書	「Peace Talk」(開文社出版、前川智子編著、Andrea LeBlanc 外著、1,890円)		
成績評価の方法・基準等	期末テスト(50%) 中間テスト(20%) 毎週の課題(20%)提出課題は期限厳守のこと 授業中の活動(10%)		

受講要件(履修条件)	欠席が5回となると期末試験を受ける資格を失う。30分以上の遅刻・早退は原則として欠席扱いとする。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	英語構成法、語彙力、英語らしい発音・イントネーションが向上する。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	毎回宿題(教科書の練習問題)を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。 上記宿題は教科書のコピーを授業の初めに提出してもらうので、授業前に準備しておくこと。 教科書のお下がり不可。昨年受講した再履修者に限っては本人の教科書であれば再使用も可能だが、新教科書で新たに学習することを奨励する。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20120590011050	科目番号	05900110
授業科目名	●総合英語Ⅱ		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	外国語科目、B科目群 外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経]本館12講義室		
対象学生(クラス等)	夜間主		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー	授業終了時		
授業のねらい	コミュニケーションを支える文法力を高め、英語の運用能力を養います。世界共通語としての英語を通じて、異文化間の人々との会話を楽しめるよう基本的な表現や語彙力のStep-upを目指します。		
授業方法(学習指導法)	リスニングによる音声把握、音読による発音練習、そして、内容把握を目的とし、英文の読解力と表現力を養っていくものとする。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業内容	毎回、1つずつUnitを進む。文法事項→基本練習(ロールプレーを用いた会話を含む)→発展練習(ロールプレーを用いた会話を含む)の順番で行う。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション:授業の進め方・評価の仕方の説明・授業アンケート&クイズ	
	2	Unit 1 会話の英語1	
	3	Unit 2 会話の英語2	
	4	Unit 3 語句や文をつなぐ	
	5	Unit 4 過去を語る英語	
	6	Unit 5 これからのことを語る英語	
	7	Unit 6 自分を語る英語	
	8	中間としてのまとめ	
	9	Unit 7 人を動かす英語	
	10	Unit 8 人の言葉を伝える英語	
	11	Unit 9 数量を表す英語	
	12	Unit 10 位置・移動を豪球英語	
	13	Unit 11 気持ち・形状を表す英語	
	14	Unit 12 動きのある英語	
15	Unit 13 英語の「は」と「が」		

	16 後半のまとめ:(定期試験を含む)
キーワード	Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary
教科書・教材・参考書	Grammar for Communication-Weaving It All Together (Asahi Press)
成績評価の方法・基準等	教員評価分【定期試験40%、中間試験30%、小試験20%、授業への姿勢(予習・発言・質問)10%】
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

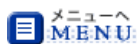
『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。 [印刷](#)タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主**」
シラバスの詳細は以下となります。

学期	前期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20120590013050	科目番号	05900130
授業科目名	●総合英語Ⅲ		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	外国語科目、B科目群 外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経]本館21講義室		
対象学生(クラス等)	夜間主		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業のねらい	異文化理解を深めることは外国語学習への第1歩であることを前提に広い視野を持って英語学習を進めていく。イギリスやアメリカの文化を・習慣と通じ、日本やアジアの文化・習慣との違いを知ることにより深い英語の表現を学習することができるのである。		
授業方法(学習指導法)	短い英文を読み、読解力を鍛えるとともに文法力の確認、語彙力作文力を通して表現力をの向上を目指す。Speakingの練習も同時に行う。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業内容	毎回1つのUnitを進めていく。ReadingとExerciseとしてBuild Up Your Vocabulary、Check Your Understanding、Grammatical Pointを行う。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション:授業の進め方・評価の仕方の説明・授業アンケート&クイズ	
	2	When Do You Eat? —アフタヌーン・ティーってお茶の時間?—	
	3	Before You Go to England —イギリスはどこにあるのか—	
	4	Future of the Shopping Mall —なんでも買えるお店はどこにある?—	
	5	Basic of Apartment Renting —世界の借家事情—	
	6	Is That Really English? —それってホントに英語なの—	
	7	Dining Out: East and West —「私がおります」—	
	8	中間としてのまとめ(テストを含む)	
9	Careers and Promotions —年功序列と実力主義、どちらがいい?—		

	10	Bath or Shower? —あなたは風呂派？ それともシャワー派？—
	11	White=Right? —美白の魔力、白い肌が美しいというのは世界の共通か？—
	12	Money and Modern Weddings —経済力と結婚の厳しい現実—
	13	Subway Around the World —世界の地下鉄を乗りこなそう—
	14	Work Hours —生きるために働くのか、働くために生きるのか—
	15	Female Leaders —女性と仕事—
	16	全体のまとめ(定期試験を含む)
キーワード	Reading/Writing/Listening/Speaking/Vocabulary/文法	
教科書・教材・参考書	Know the Differences, Broaden Your World!—Short Reading and Basic Grammar for Cultural Literacy— (Asahi Press)	
成績評価の方法・基準等	定期試験40%、中間試験30%、小試験20%、授業への姿勢(予習・発言・質問)10%	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主-教養教育:安全で安心できる社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	火6																												
開講期間																															
必修選択	必	単位数	2.0																												
時間割コード	20120586013750	科目番号	05860137																												
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (健康と医療の安全・安心)																														
編集担当教員	浜田 久之																														
授業担当教員名(科目責任者)	浜田 久之																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	浜田 久之, 菊池 泰樹, 池田 通, 金子 高士																														
科目分類	全学モジュール I 科目																														
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																												
教室	[経]新館101講義室																														
対象学生(クラス等)	経済学部(夜間主)																														
担当教員Eメールアドレス	浜田久之: hhamada@nagasaki-u.ac.jp																														
担当教員研究室	浜田久之 長崎大学病院医療教育開発センター																														
担当教員TEL	浜田久之 095-819-7847																														
担当教員オフィスアワー	浜田久之 8:45-17:30																														
授業のねらい	健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。																														
授業方法(学習指導法)	基本的に講義形式とする。 内容により参加型の討論形式などを行う。																														
授業到達目標	①健康と医療に関する日本のヘルスケアシステムを知る。 ②自身の健康増進のために何をすべきかを自覚する。 ③様々な疾病の一般的な知識を獲得する。 ④グローバルな視点で医療を考えることができる。																														
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10/2 世界における日本の医療システムについて説明し、日本の医療について考える。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10/9 健康維持や生活習慣病予防について考える(循環器疾患を中心に)。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/16 健康維持や生活習慣病予防について考える(消化器疾患を中心に)。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10/23 現代社会における口腔管理の必要性[歯学部 池田]</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/30 歯と骨の疾患の深い関係[歯学部 池田]</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11/6 種々の歯周疾患の病態、病因について理解し、歯周病の予防について考える。[歯学部 金子]</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11/13 噛むことの意義と全身の健康との関わりについて考える。[歯学部 金子]</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11/20 歯周疾患と全身疾患の関連性について考える。[歯学部 金子]</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>11/27 インターネットの落とし穴[保健学科 菊池]</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>12/4 インターネットセキュリティー1[保健学科 菊池]</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12/11 インターネットセキュリティー2[保健学科 菊池]</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>12/18 インターネットセキュリティー3[保健学科 菊池]</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>1/8 海外旅行で病気にならない方法(予防接種を中心に)[ゲスト講師]</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	10/2 世界における日本の医療システムについて説明し、日本の医療について考える。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]	2	10/9 健康維持や生活習慣病予防について考える(循環器疾患を中心に)。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]	3	10/16 健康維持や生活習慣病予防について考える(消化器疾患を中心に)。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]	4	10/23 現代社会における口腔管理の必要性[歯学部 池田]	5	10/30 歯と骨の疾患の深い関係[歯学部 池田]	6	11/6 種々の歯周疾患の病態、病因について理解し、歯周病の予防について考える。[歯学部 金子]	7	11/13 噛むことの意義と全身の健康との関わりについて考える。[歯学部 金子]	8	11/20 歯周疾患と全身疾患の関連性について考える。[歯学部 金子]	9	11/27 インターネットの落とし穴[保健学科 菊池]	10	12/4 インターネットセキュリティー1[保健学科 菊池]	11	12/11 インターネットセキュリティー2[保健学科 菊池]	12	12/18 インターネットセキュリティー3[保健学科 菊池]	13	1/8 海外旅行で病気にならない方法(予防接種を中心に)[ゲスト講師]
回	内容																														
1	10/2 世界における日本の医療システムについて説明し、日本の医療について考える。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]																														
2	10/9 健康維持や生活習慣病予防について考える(循環器疾患を中心に)。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]																														
3	10/16 健康維持や生活習慣病予防について考える(消化器疾患を中心に)。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]																														
4	10/23 現代社会における口腔管理の必要性[歯学部 池田]																														
5	10/30 歯と骨の疾患の深い関係[歯学部 池田]																														
6	11/6 種々の歯周疾患の病態、病因について理解し、歯周病の予防について考える。[歯学部 金子]																														
7	11/13 噛むことの意義と全身の健康との関わりについて考える。[歯学部 金子]																														
8	11/20 歯周疾患と全身疾患の関連性について考える。[歯学部 金子]																														
9	11/27 インターネットの落とし穴[保健学科 菊池]																														
10	12/4 インターネットセキュリティー1[保健学科 菊池]																														
11	12/11 インターネットセキュリティー2[保健学科 菊池]																														
12	12/18 インターネットセキュリティー3[保健学科 菊池]																														
13	1/8 海外旅行で病気にならない方法(予防接種を中心に)[ゲスト講師]																														

	14	1/15 海外旅行から元気に生きて帰ってくる方法(グループ学習)[熱帯医学研究所 佐藤]
	15	1/22 海外旅行のリスク(実際の事例から)[ゲスト講師]
	16	
キーワード	医療システム 健康増進 様々な疾病	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	出席時に毎回、テーマに関する考察(200字~400字)を提出し、これを10点とする。100点以上を合格とする。90点以下は不合格。	
受講要件(履修条件)	特になし	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	将来的に自分や家族が安心して暮らしてゆくために、どのような医療システムが良いのか、また自分自身で何ができるのか考えて行動に移すことが学習目標である。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	日頃より医療に関する新聞・TVニュース等に注目すること。	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主-教養教育:安全で安心できる社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120586014150	科目番号	05860141
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (リスク社会と社会科学)		
編集担当教員	赤石 孝次		
授業担当教員名(科目責任者)	赤石 孝次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	赤石 孝次		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部(夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	akaishi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館(片淵キャンパス)6階632号		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	金曜日12:00~13:00		
授業のねらい	<p>今日、日常を取り巻く危険や不安が私たちの回りには蔓延しています。「安全で安心できる社会」というこのテーマはこのような危険や不安に、どのように対処していけばいいのか、何をなすべきか、どう考えるべきか、そして何をしたらいけないのかについて学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献する知識と理解を涵養することを目的としています。</p> <p>現代社会のリスクは、科学・技術の発達の歪みだけからではなく、科学・技術が狙い通りに発達し、その狙いを達成したからこそもたらされたものもあります。本授業では、そもそも、安全とは何か、安心とは何かについて、主として「リスク社会」をもたらしただけの視点から考察し、社会科学的に現代社会の課題にどう立ち向かうかを考えていきます。</p>		
授業方法(学習指導法)	レジュメを中心に授業を行い、必要に応じて参考文献を紹介する。また、Questioning and Answering方式を多用した授業を行うことで、知識の定着とその活用能力を高める。		
授業到達目標	<p>①現代経済社会に関する幅広い知識および思考方法を身につける(基盤的知識・多様性の意義・批判的思考・自主的探究)</p> <p>②自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる(自己表現・コミュニケーション)</p> <p>③リスク社会の不安や不確実性の克服に社会科学がどのように応え、応えようとしているかを理解できる(基盤的知識・学問を尊敬する態度)。</p>		
授業内容	回	内容	
	1	I'm hungry.社会からI'm afraid.社会へ	
	2	人間関係リスク	
	3	人間関係リスク	
	4	経済的リスク	
	5	経済的リスク	
	6	IT関連リスク	
	7	IT関連リスク	
	8	環境リスク	
	9	環境リスク	
	10	医療リスク	
	11	医療リスク	

	12	経済学のリスク論
	13	経済学のリスク論
	14	社会学のリスク論
	15	社会学のリスク論
	16	
キーワード	リスク、分散、再分配、信頼、福祉社会、福祉国家	
教科書・教材・参考書	とくに指定しない。	
成績評価の方法・基準等	講義中のQ&Aおよび毎回の講義で提出を義務付けるコメントにより総合的に評価。	
受講要件(履修条件)	とくになし。	
本科目の位置づけ	高校教育と専門課程教育との橋渡し。	
学習・教育目標	高校までの受け身の学習から脱却し、能動的な学習態度を身に付ける。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育):夜間主-教養教育:安全で安心できる社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水6
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120586014550	科目番号	05860145
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (科学と技術の安全・安心)		
編集担当教員	林 秀千人		
授業担当教員名(科目責任者)	林 秀千人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 秀千人、高橋 和雄、田中 俊幸、久保 隆		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部(夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	hidechto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部流体エネルギー工学研究室		
担当教員TEL	095-819-2516		
担当教員オフィスアワー	月から金8時から8時30分		
授業のねらい	危険や不安に、どう考え、何をなすべきか、どのように対処するのかを学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養する		
授業方法(学習指導法)	基本的な事項について、講義により学習をする。さらに、テーマをもとに、みんなで安全・安心について考えて意識を高める。		
授業到達目標	安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は、普段は見過ごし危険や事故に遭遇したときに意識するものですが、普段の取り組みが重要となります。本授業では、安全とは何か、安心とは何かについて、「災害・事故からの社会システムの安全・安心(科学と技術の安全・安心)」の観点から、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解を深める		
授業内容	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。 第1回 安全と安心の基本的な考え方について 第2回 災害とリスクマネジメントについて 第3回 安全文化について 社会では様々な事故が発生し、貴い命が失われることも多い。そのような事故が起こらないように安全を確保することが重要である。そのためには何が重要かを事故の事例とその原因を考えながら学習する。 第4回から第7回 自然災害と安全・安心 長崎の豪雨災害をはじめ、これまで発生した災害を教訓に日本各地で防災の都市づくりが進められている。国や自治体レベルで行われている施策を学び、さらに災害が起こったときの備えについて学習する。 第8回から第11回 化学物質の安全・安心 身のまわりのさまざまな物質に関して、安全を確保するための規制や法律等さまざまな考え方をもとに、安全への取り組みを紹介し、安全安心を考える。する。 第11回から第15回 電磁波がもたらす影響について 身のまわりに生じている電磁波を中心に、目に見えないものが身体へ及ぼす影響について、安全をどうとらえ、安全安心へどのように取り組まれているかを紹介し、安全安心を考える。		
キーワード	科学技術の安全、システムの安全と安心、安全文化と安心		
教科書・教材・参考書	安全・安心工学入門(古今書院)、必要に応じて資料を配布する。		
成績評価の方法・基準等	数回のレポートにより評価		
受講要件(履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.